

私たちがキリストの奥義を語れるように祈ってください。

コロサイ4:3

2014(26)年 週 報

11月30日
第5聖日
3380号

「約束のクリスマス」

聖言

ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者がでる。

ミカ5:2

礼拝の恵み 第一八章 第七部 礼拝の仕方
第一節 礼拝は霊的であるべきである
これは「神を礼拝する者も、霊とまことをもって礼拝すべきである」と言いかけただけである。われらの主は預言者ホセアによる神の言「わたしはいつくしみを喜ぶ、犠牲を喜ばない。」(ホセア六ノ六口語)を二回引用したもうた。いつくしみという単語は字義どおりには「善良」あるいは行動が正直であり、生活が謙虚である。という意味である。キリストがこれを引用されたのは、最初はかれが取税人や罪人と緒に食事をしてのをパリサイ人が非難したのと関連している。パリサイ人というのは、分派の一つで、律法のうちの礼典の部分を外面的守ることを誇り、その生活は全体として全く矛盾している人々であった。これがキリストの最も激しい敵であった。これらはキリストを殺すことしか考えていなかった。それはキリストがかれらの性格を究明して、その義善を大胆に非難したからであった。彼らに対するわれらの主の言葉は「わたしはあわれみを好むが、いけにえは好まない。」(マタイ九の一三)というのであった。神がいけにえを求めなかったわけではなかった。神御自身がいけにえを制定されたからである。われらの主がここで強調されたのは、礼拝が神に受け入れるためには、動物をいけにえとしてささげるといふ行為に、ささげる者の真実な態度と筋のおった生活がともなわなければならない。というのである。礼典をきびしく守るのと、生活の善良さ真実さとの、どちらを選ぶというなら、後者に優位をもたなければならない。(Apg16:25「礼拝」より)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年一月三日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「聖書の常識」

「あのむなししい、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。そのようなものは、人のいいつたえによるものであり、この世に属する幼稚な教えによるものであって、キリストに基づくものではありません。」(コロサイ二ノ九)

現代においても数やジンクスにこだわります。昨日は良い夫婦でした。十一月二二日の語呂合わせです。結婚する日、七、五、三の子どもの宮参りも語呂合わせに思えます。わたしたちはそれらに何でも反対するよりも、西欧の冬至の祭りを義の太陽なる救い主の御誕生を祝うクリスマスと変えたように、聖霊の知恵をもちいなければなりません。そのためにキリストの初歩的な教え、基本原則を学ぶのです。この世の哲学は主知主義であり、反対は主情主義です。キリストの哲学は知性と感情を調和させるのです。すなわち、感情を理性と知識、すなわち御言葉により確かめ、理性と知識のよって御言葉を与えられ行動により実践するのです。感情を先走って現わすのでなく、御言葉により感情を燃え立たせたり、消したり制御しなければなりません。キリストの初歩的教え、聖書の常識とはイエスは宣教の中心を神がどのように人々が生きることを望んでおられるかを弟子達に教えることを考えておられました。このことを教えるにあたり、一定の型がありまします。まず救いの真理、次にそれに基づく実践についての解説があります。ローマ、ガラテヤ、エペソ、ペテロなどではまず福音の意味を語り、次に福音により神の子と生まれ変わった者の実践生活の方法を記しています。

二〇一四年一月二十六日午後七時 祈祷会 山本牧師

「ネゲブよ聞け」(エゼキエル連講三三回)

「ネゲブの森に言え、『主のことばを聞け。神である主はこう仰せられる。見よ。わたしはおまえのうちに火をつける。その火はおまえのうち、すべての緑の木と、すべての枯れ木を焼き尽くす。その燃える炎は消されず、ネゲブから北まで、すべての地面は焼かれてしまう。そのとき、すべての者は、主であるわたしが燃やしたことを見るであろう。その火は消されない。』そこで、私は叫んだ。『ああ、神、主よ』彼らは私について、『彼はたとえ話を繰り返している者ではないか。』と言っています。」(エゼキエル二〇ノ四六〜四九)

ネゲブはユダヤの南部の荒地です。エゼキエルはバビロンに捕囚の地で祖国イスラエルの将来を預言した。緑の木とは善人、枯れ木は悪人である。罪は善人をも巻き込んで滅びを来たらす。これを聞いた民はたとえ話を繰り返すと、エゼキエルの預言を真剣に聞かなかつた。今も昔も神の言葉は無視されている。しかし、神は預言者を立てて福音を宣べ伝える。宣教により流された血に余りある救霊の実が、日本に韓国に中国にイスラム国に結ばれたのである

二〇一五年新年聖会

元旦(木) 午前一〇時 元旦礼拝
二日(金) 新年過ぎ越し聖会
午前一〇時 聖餐式聖会 山本師
午後二時 足達師
午後七時 西田師 新年祈祷会と牧師会

一二月の計画

- 一日(月) 説教塾 神港教会 午前二時
 四日(木) 湊川公園伝道森田兄応援 午後二時
 五日(金) 神戸市民クリスマス 午後七時 神戸文化ホール
 七日(日) 役員会 礼拝後
 十一日(木) 榑原家集会 午後二時
 一四日(日) クリスマスコンサート 午後二〜四時
 一八日(木) 納骨堂掃除 午前一〇時
 二二日(日) クリスマス賛美礼拝 午前一一〜午後〇時半
 二三日(火) クリスマス大日丘集会 午後二時〜四時

十二月の召天会員

- 五日 小仲 一郎兄 一八周年
 七日 魚住 桂二兄 四五周年
 八日 中嶋きよ子姉 七三周年
 九日 松田 勇夫兄 三周年
 十二日 森 あやゑ姉 六二周年
 十二日 紺本清太郎兄 五二周年
 十二日 中瀬 清文兄 五周年
 十五日 矢上栄一郎兄 三〇周年
 十八日 砂川 照代姉 三二周年
 十八日 西川 省三兄 四九周年
 十九日 片山 忠蔵兄 六八周年
 二四日 三永 隆生兄 二三周年
 二四日 佐藤 秀姉 一六周年
 二五日 松田 洋子姉 四七周年
 三一日 片山 繁兄 四三周年
 三一日 木村 喜一兄 四一周年

※ クリスマス約束献金

予算 百万円(昨年に準じます。)
 乞う。祈禱と協力 役員・牧師